

八戸工業高等専門学校

同窓会会報

八戸高専同窓会 第48号

同窓会会報48号の目次

学校の風景	1	私のお仕事紹介します	5
会長あいさつ	2	学内ニュース	6
校長あいさつ	3	コースからのメッセージ	15
支部会報告	4	令和4年度 事務局短信	17

学校の風景



【 3年ぶりの体育祭を楽しむ学生たち 】

会長あいさつ ~ 同窓会のSDGs ~



【同窓会会長 館山 勝 (Z6)】

在位通算 18 年のプーチン大統領 (69 才) によるウクライナへのロシア軍事侵攻は、沈静化の兆しが見え始めたコロナ報道に代わり、連日、世界を騒がせている。任期上限の 2 期 10 年が経過し秋の党大会にて更なる長期化を目指す習近平国家主席 (68 才) による台湾進攻も懸念される。国にしろ、会社にしろ、同窓会にしろ、高齢者の長期政権は独善的判断や忖度がはびこり、組織の健全性や活性化を妨げる。

私も今年 65 才、早いもので同窓会長に就任して 7 年が経過した。プーチンや習近平と比べるすべもないが、同窓会の活性化の妨げとなる前に世代交代を図りたいところなのだが、なかなか成り手が見つからない。私と一緒に就任された橋場副会長 (71 才)、円子副会長 (64 才) の後任も見つかっていない。

そんな中、先日の評議会にて、役員成り手がいないのは同窓会に魅力を感じないため、そもそも同窓会は必要なのかとの問題提起がなされた。特に若い世代の大半はそう思っているとの指摘である。実際、卒業生の同窓会入会辞退がここ数年目立つようになっており、今年は 4 名の方が辞退された。一時期ネット上で PTA 不要論が炎上したが、PTA に限らず、後援会にしろ、町内会にしろ、

会社の飲み会や旅行会にしろ、昨今は不要論の乱立である。戦後、高度成長期を経験したシニア世代の産物が時代の変化に適合せず、会の存在意義を見出せない若い人が増えているからであろう。

昨今、マーケティングなどにおいて、デジタル化の進みに合わせた世代の定義が使われている。インターネット環境が整備され IT に高い親和性を持った世代 (概ね 1985~1994 年生まれの方) は「ミレニアル世代」と呼ばれ、情報リテラシーに優れ、ネット検索や SNS を利用したコミュニケーションを巧みに使いこなす。令和に卒業した最近の卒業生は Z 世代と呼ばれ、デジタルが当たり前の時代 (1995 年以降) に生まれたデジタルネイティブであり、デジタルで新しい世界を切り開くことが期待される Dx 世代である。現在、同窓会活動のコアである「シニア世代」とは、時代背景や育った環境、同窓会への期待度も異なる。

しからば今一度原点に立ち返り、同窓会の役割とは何かと問われれば、世代を超えた会員の親睦、母校の応援団、地域社会への貢献であり、この役割は不動と思われる。一方、同窓会が持続的に発展するためには、従来の枠組みを超えて、各世代の多種多様な要求に対応する必要がある。特に、会員サービスの世代間格差の是正には早急に取り組む必要がある。具体的には、これまでの同窓生の集会場所の提供に加え、現職世代への人脈作りや学校の環境整備への貢献、現役学生支援などを充実させる必要がある。

現在、同窓会では、これら活動のエンジンとして名簿データベースシステムを構築中である。しかしながらシニア世代の発想ではダイナミックな改革は難しい。ロシア侵攻を受け NATO への加盟を決断したフィンランドのマリン首相は 36 歳である。是非とも若い世代で同窓会を変革できる人の出現を切望する。

校長あいさつ



【特別会員・学校長 圓山 重直】
(まるやま しげなお)

依然として、新型コロナウイルスが猛威をふるっています。本稿執筆時点の8月末で、新規感染者数は高止まりの状態です。世界では、ウイズコロナ政策が浸透し、社会的制約を大幅に緩和しています。日本も早晚制限緩和が進むことを期待しています。

本年度は、感染対策を十分しながら校内体育大会や高専体育大会を実施しました。高専祭も行う予定で準備を進めています。本校も、ウイズコロナに向けて校内の体制を整えて、学生の教育や課外活動ができるように準備を進めていきたいと考えています。

現在建設中の北辰寮N棟がもうすぐ完成します。令和3年度に完成しているI棟、令和2年度に改修したE棟と同様に、個室とコモンスペースを有するシェアハウス型混住寮で、留学生と日本人学生が共に生活します。現在運用中のI棟、E棟と合わせて、150人規模の混住寮ができることになり、9月16日には、高専機構本部理事長等をお招きして、高専制度創設60周年記念行事の一環として式典を開催する予定です。

令和5年度から入試が大幅に改定されます。早期に本校希望者の入学を決める「国際的エンジニア育成特別選抜」を新設しました。本年度は、青森県内外から多くの方々に応募いただいております。また、推薦選抜制度を拡充して入学定員の60%とし、希望コースを2つ選べるようにしました。さらに、複数校受験、最寄りの高専から本校を受験できる遠隔地受験も整備しています。詳しくは、本校ホームページをご覧ください。本校では、青森県外の卒業生のご子息・ご息女にも受験していただきたいと考えています。特に、本校卒業生のご両親が青森県に在住の方は、ご検討いただけると有難いです。

令和2年度から、「一般財団法人はちのへ科学技術研究会」と共同で、卒業生の皆様の再就職支援を行っています。令和3年度は、6名の卒業生から問い合わせがあり、5名の再就職が決まりました。再就職を希望される卒業生の方は、「一般財団法人はちのへ科学技術研究会」にご相談ください。

令和4年度の本校の人事異動ですが、戸田山みどり教授、工藤憲昌教授、松橋信明教授が令和4年3月31日をもって定年退職となりました。先生方の本校への永年のご尽力に敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げます。

また、令和3年6月1日にマテリアル・バイオ工学コース金子賢介助教、令和4年4月1日に機械・医工学コース北川広大助教、総合科学教育科小笠原幸子特命准教授、東海林恵子特命助教、ガルブレス・ハンナ・エリザベス特命助手が赴任されました。今後のご活躍を祈念致しております。

同窓会の皆様には、今後とも本校発展のために一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

支部会報告

関東支部より

【八戸高専同窓会関東支部長 戸田 和孝】

同窓生の皆様には、3年も続いている新型コロナ禍にも負けずにお過ごしのことと存じます。

さて、関東支部では同窓会活動としてのサロン会を開催しておりますが、新型コロナ禍のために対面の活動ができないので、直近はテレビ会議方式で開催致しました。

臨時サロン会 2021/11/13 開催

インターネットテレビ会議 Teams を用いて、C科12回生の佐々木広徳様に「新型コロナウイルスに負けるな!」というテーマで講演していただきました。佐々木様は、1979年に八戸高専卒業後、I.C.Iファーマ株式会社に入社されました。同社はその後、アストラゼネカ株式会社に社名変更致しました。在職中は、東京勤務だけでなく、大阪市・横浜市・名古屋市・山形市にて医薬品の販売業務、承認業務等のお仕事を担当されました。2018年に定年退職後も、アストラゼネカ株式会社との間で業務委託契約を結び、個人事業主として現在もご活躍されています。

今回のサロン会では、佐々木様がお仕事で見聞きされました新型コロナウイルスに関する情報や厚生労働省から開示されているデータ・情報をもとに詳細にご説明頂くと共に対策についても分かりやすくご説明して頂きました。また、双方向でのテレビ会議なので、参加者からの質問受付とそれに対するお答えも丁寧にして頂きました。今まさに、流行している新型コロナ禍についての内容なので、参加者からは真摯な質問が相次ぎました。

関東支部では同窓生にとって役に立つ講演をサロン会として開催予定です。以下のメールアドレスにご連絡いただければ随時、関東支部の活動情况等をメールにてご連絡いたします。

tod.kaz@r2.dion.ne.jp

同窓生の皆様のご理解とご協力に感謝しております。



臨時サロン会の様子 (2021/11/13)

私のお仕事紹介します

「光ファイバに関連する仕事」

アダマンド並木精密宝石株式会社

M26 佐々木 勝 さん

現在、アダマンド並木精密宝石(株)の足立区にある本社事務所に勤務しています。

当社事業の柱は光通信部品(横手工場)、精密宝石(湯沢工場)、小型モーター(黒石工場)、医療用装置(タイ工場)などです。最近の話題は合成ダイヤモンド基板。実際に扱う機会があったのですが大きく高品質な基板が出来てきており、究極のパワー半導体の実用化が期待されています。

私の仕事は光スイッチ等の光通信用デバイスや光ファイバ電流センサの開発です。電流センサは光ファイバを電線に巻き付けて光を使って電流を測定するもので、ファラデー効果を利用しています。送配電の分野や従来の電流センサでは対応できない特殊な用途で採用頂いています。この仕事のご縁で光ファイバセンサ専門部会(光産業技術振興協会)に参画し、IEC規格の提案、原案作成に携わりました。日本語版はOITDA規格「光ファイバ電流センサ」、「光電圧センサ」としてWEB公開されています。

長岡技科大から並木精密宝石株式会社に入社して25年、いろいろありました。黒石工場で8年、その後同じオーナー企業のアダマンド工業(株)に転籍。経営面でいろいろあってアダマンドと並木が合併し現在の長い社名になりました。2023年1月にはOrbray株式会社に社名変更します。

八戸高専からの新卒採用はしばらく途絶えています。今後継続して入社してくれると嬉しいです。



「TECHNOLOGY×CREATIVE」

チームラボ株式会社

E49 日山 拓海 さん

弊社はWebサイトやスマホアプリを作成するSIと、プロジェクションマッピングやLEDなどを用いたアート展示の2つのソリューションをメインに取り組んでおります。特にアート展示は日本の東京と大阪、福岡をはじめ、海外ではアメリカや中国、シンガポールなど国内外問わず様々な場所で行われています。

私は2018年からMachine Learning teamに所属しており、チームとしては様々なセンサや機械学習、画像処理を用いたセンシングの開発を担当しています。このセンシングされた情報をもとに様々なインタラクションが発生するため、お客様の体験に関わる重要な部分を担っています。加えて、私はプロジェクションマッピングに関わる部分の研究と開発を担当しています。展示会場での設営効率化や演出のクオリティアップ、メンテナンスの自動化などについて取り組んでいます。

自分が担当する仕事によって、お客様が感じる体験の質が変わってしまうシビアな仕事です。限られた時間で高いクオリティの仕事をするのが求められる、エンジニアとしてやりがいのある仕事だと感じています。



学内ニュース

定年退職教員のご挨拶

「工業高専における文系教員の役割を探して」

【総合科学教育科 教授 戸田山 みどり 先生】



この度定年により退職となります。八戸工業高等専門学校には 2001（平成 13）年 4 月に採用していただき、それ以来 21 年間、なんとか定年まで務めることができました。これはひとえに、同僚であった教職員の皆様のおかげであり、また、何より出会った多くの学生の皆さまのおかげです。

私にとって、八戸高専は初めての「職場」でした。大学を卒業して以来、3 年ほど高校の非常勤講師をしつつ、最初の大学院で文学修士を取得。その後、夫の仕事の関係で名古屋に転居してからは 10 年ほど、複数の大学で主に英語の非常勤講師をしていました。概ね週に 4 日 8 コマ、それぞれ別の大学で授業をしていると、よほどのことがない限り学生の名前と顔を覚えることはありません。

当時は、教科書は各教員に任せられている場合がほとんどで、統一したプログラムに沿ったカリキュラムのある大学は珍しい方でした。

このような状況でしたから、八戸高専に来て最初に驚いたことは、廊下をすれ違う学生を教員が名前で呼んで話しかけていることでした。でも、気がついたら 1 年しないうちに自分も同じようなことをしているのです。5 年間（専攻科生の場合は 7 年間）という長期間、それも多感な年頃の学生の約半数が寮生活をしている、という環境のなせるわざでしょう。

また、専任の教員になるということは、単にその年度の授業の責任を持つだけでなく、卒業後までを見据えた長いスパンでの教育内容を組み立てることを求められます。私にとっての八戸高専での課題は、技術者になるための教育を受けている学生にとっての英語教育とはどのようなものであるべきか、ということでした。幸い、英語の 4 技能のうち「聴く・話す」を中心としたコミュニケーションに関しては同じ年に赴任された阿部先生が熱心に取り組まれていましたので、私はリーディング、それも科学英語の読解力の向上を受け持つことにしました。当時イギリスで最先端の中学生向け科学の教科書だった（らしい）オックスフォード大学出版会から出ている「21 世紀の科学」シリーズの中から、なぜか「物理」にあたる単元を選んで教材にしていました。物理といっても力学というよりも地学に近い内容の箇所でしたが、学生

さんと一緒に地球温暖化の仕組みなどを読んだことは、私にとっても大変に勉強になりました。というのも、高校時代に物理は最も苦手な科目だったからです。10年くらいは続きましたので、カラー写真満載の教科書を覚えている卒業生の皆さんも何人かはいらっしゃるでしょう。

理系の英語を学生さんと一緒に読む目的の一つは編入学試験対策です。今では出願の際に TOEIC のスコアを提出することで英語の試験の代わりにする大学が増えていますが、10年ほど前まではほとんどの大学が独自に問題を作成していました。大学生向けの教科書や一般向けの雑誌の科学ニュースなどが中心で、おかげで再生可能エネルギーや惑星探査の話題など、普段から気をつけるようになりました。

そんなことを続けているうちに、科学技術社会論学会に入会して、社会と科学技術の関係についても勉強するようになりました。1年生向けの「ものづくり基礎」という授業では、無謀にも「理学と工学の違い」だの「工学的発想」だのといった話もしています。専攻科2年生の授業では「科学に問うことはできるが科学では答えることはできない」トランス・サイエンスと呼ばれる領域にある様々な問題についてディスカッションをしてもらいました。

科学技術社会論という分野はもともと領域横断的で、学会設立の際には科学者・工学者に加え科学哲学の研究者が参加していたようです。私自身は英文学が専攻で（英語教育の修士にも行きましたが）、それほど専門的なアプローチができるわけではありません。しかし、英語や国語科として分類される授業の時間で、どうしたら工学を学ぶ学

生に必要とされるものを提供することができるかと考えていると、だんだん得体の知れないものになってきました。昨年、ある学生さんに「先生の専門って何なんですか？」と真顔で尋ねられましたが、これは褒めてもらったのだろうと勝手に解釈しています。

私の「英文学専攻」成分は、おもに部活動の指導の方で発散させていたようです。平成16年から今年まで、齋先生の後釜で演劇部の正顧問を務めさせていただきました。その間に2回も青森県代表（もちろん、もう一つは全国大会常連校の青森中央高校）として東北大会に参加することができたのは、ひとえに学生の皆さんのセンスの良さのおかげです。高校生とは一味違う、高専らしさを褒めてくださった周りの高校の先生方にも感謝しております。

2016年に八戸市営書店である八戸ブックセンターができてから、人とのつながりが飛躍的に広がりました。今では八戸市教育委員会のお手伝いとして、ブックセンターの方と一緒に市内の小学生に本の紹介をする仕事をしています。八戸市のホームページで「本はともだち」と検索すると、これまでのリストをご覧いただくことができます。八戸高専で男女共同参画の仕事に関わったことから、リストでは必ず理系の図書、それもリケジョを紹介する本を含めるように心がけています。

振り返ってみて、高専という学校の特殊性、八戸という土地の力で、他では得られない経験をすることができたのだなあ、と思います。そして、それを可能してくれたのは、やはり出会った学生さんたちだったのだと思っています。

「八戸高専での 28 年間」

【産業システム工学科 電気情報工学コース

教授 工藤 憲昌 先生】



八戸高専 電気 12 回生の工藤です。昭和 54 年に電気工学科を卒業し、大学・大学院を経て東京芝浦電気株式会社（現株東芝）に就職し、11 年間同社研究所に勤務しました。実家の状況で悩んでいたところ、高専時代の恩師の紹介があって、平成 6 年 4 月に八戸高専に赴任でき、早いもので 28 年になりました。前述のように、11 年間民間企業の研究所に勤務しており、本校出身ですが元部下と学生の年齢差もあって、当初は戸惑いがありました。特に、最初から電気 3 年のクラス担任ということで、学科の先輩の先生から色々教えてもらいながら業務を必死にこなしたことを覚えています。

28 年間の高専の教員生活の中で、授業は情報処理、通信、制御、電子回路など、情報系全般を担当させて頂きました。学生が躓くところが分かってくると、真面目に取り組んでいる学生にどんなふ

うに教えようかと考えて、「なーんだ、自分も学生と一緒に成長しているのだ」と思うようになったものです。研究の面では、適応信号処理（簡単に言うと学習していくシステム）に取り組みました。学位取得に向けて、夜遅くまで計算機シミュレーションを続けたこと、卒研究生や専攻科生と一緒に応用を考えて計算結果を議論したこと、学科長になり業務が増えてくるまでは、国際会議に何度も参加し刺激を受け、異国の屋台などで珍味(?)に巡り合ったことなどなど、良い思い出です。校務では、専攻科長の時、「特例認定の申請（専攻科生の学位申請の簡素化）」、総合情報センター長の時、校内ネットワークの構築・簡素化を担当しました。

また、クラブ活動では、鳴海寛先生と一緒にバスケットボール部の顧問をし、40 歳前半まで止せばいいのに(?)、学生と一緒にプレイができたのは良い思い出です。幸いなことに東北地区大会で上位を維持し、何度か全国大会に行かせてもらいました。

28 年間何とか健康で無事に勤務できたのは、教職員の皆様をはじめ、優秀な学生さん、支援いただいた企業の皆様、家族のおかげです。ありがとうございました。

定年後は、令和 6 年 3 月までの予定で、短時間勤務の教員として、八戸高専にお世話になります。来八の際は、声をかけて頂ければ幸いです。

最後に、八戸高専、同窓会の益々の発展を願って、定年の挨拶とさせて頂きます。

「八戸高専 40 年間の思い出」

【産業システム工学科 電気情報工学コース

教授 松橋 信明 先生】



私は、昭和 49 年度に八戸高専電気工学科に入学して 5 年間寮生活をしました。電気工学科第 12 回卒業生です。そして昭和 62 年度から 35 年間、教員として八戸高専に勤務させていただきました。なんと、これまでの人生の約 2/3 である 40 年間は八戸高専に関わって来ました。

八戸高専に入学するにあたり、スタートに大波乱がありました。入学試験で、八戸市立大館中学校から 8 名受験しましたが、タクシーが間違っただけで全く逆方向の光星高校に行ってしまう、そこから大慌てで八戸高専に向かい、試験開始数分前に到着という、とんでもないスタートでした。

それでもなんとか合格し、当時は 1・2 年生は全寮制ですので、生まれて初めて寮生活を経験しました。特に印象に残っているのは、北寮（現在は国際寮を新築するために解体）での生活で、3 部屋が奥の方でつながっており、計 12 名の様々な学科で様々な地域出身の学生が共同生活するという今では考えられないユニークなシステムでした。当時は学生の約半分が津軽方面出身で、いつの間にか言葉は津軽弁になり、寮祭や高専祭ではねぶたやねぶたが八戸中心街を運行するという、八戸

高専ならではのイベントがありました。私は寮生活が気に入っていたので、3 年生以上の高学年になっても寮に残りました。当時は週末に娯楽室で麻雀をすることが許されており、ひたすら励んだ記憶があります。5 年生の秋に不思議なことがありました。私は指導寮生として西寮 4 階に住んでいました。ある日突然伝書バトが部屋の中に入って来て、妙になついてしまい、部屋の中で遊んだり、毎晩窓の外に置いた箱の中で寝泊まりするようになり、伝書バトと半年間ほど共同生活しましたが、私が卒業する 3 月に飛んで行ってしまいました。あれはいったいなんだったのでしょうか。実はこの話には後日談があります。36 年後の平成 26 年 7 月 2 日に、なんとまたしても私の教員室に伝書バトが飛び込んで来たではないですか。この伝書バトもまた、私の頭や腕にのっかかり、なぜかやたらとなつていて、昔あの時の孫いやひ孫でしょうか、実に不思議な体験でした。話を戻しましょう。5 年間の寮生活は、学科の枠を超えて同学年だけでなく先輩後輩の縦のつながりも築くことができるとても貴重な経験でした。

八戸高専を卒業し、長岡技術科学大学に進学して、その後シャープ株式会社中央研究所でカラー液晶テレビの研究開発を行い、昭和 62 年に八戸高専に赴任しました。

すぐに同窓会から声がかかり、同窓会 20 周年記念イベントの準備の仕事に携わりました。その中で、同窓会のいろんな先輩方とお付き合いさせていただき、たくさんの方を教壇に立たせていただきました。記念式典は多くの来賓と会員約 250 人が出席した非常に大規模なイベントだったと記憶しております。最近は総会を開催しても参加者が少なく、さびしく思います。同窓会は八戸高専と卒業生を

結ぶ重要なパイプであり、同窓会活動が活性化することを期待しております。

これまで、クラス担任を計 11 回担当しましたが、担任として一貫して実施してきたことがあります。それはクラス日誌で、学生一人一人交代で好きなことを自由に書いてもらい、それに私がコメントを書いて本人に手渡しました。私が初めて担任をやった平成 3 年度からの総冊数は、なんと 33 冊になりました。このクラス日誌は私と学生を結ぶ大切なパイプとなり、お互いにとってたいへん思い出深いものになりました。このクラス日誌は私の宝物です。定年後にゆっくりとじっくり読ませていただき、楽しみたいと思います。それともう一つ、成績通知表を送付する度に毎回クラスの保護者と学生宛に、私からのちょっと長い手紙を同封しました。この手紙が保護者から結構反響があり、感動的な返信をいただいたことが度々ありました。数年前にある卒業生と会食した際に、保護者が大切に保管していたという 20 年以上前の私から手紙を持って来てくれたことがありました。またある卒業生からは、荷物を整理していたら私からの手紙が出て来て、親になった今になって気持ちがわかって涙したとの連絡をいただいたこともありました。私としては、感無量です。

そして一番印象に残っている校務は、勤務年数の約 1/3 である計 12 年間担当した寮務委員です。

学生時代も 5 年間寮生活でしたので、まさに寮にどっぷり浸かってきたと言えます。その間に 3 年間寮務主事を歴任しましたが、卒業生で寮生活を 5 年間経験した寮務主事は前代未聞だそうです。寮務主事の時から寮の池で鯉を飼い始め、楽しんでおりますが、鯉は 12 年目の今も元気です。今では、餌やりの時に頭をなでることができるぐらい、なついております。

今こうして八戸高専に関わった 40 年を振り返ってみますと、多くの方々（伝書バトや鯉も含めて）にご協力いただき、助けられ、ご支援いただき、励まされて、無事定年を迎えることができました。人とのつながりはとても大切で、大きな財産です。同窓会もその一つです。同窓会を通じて、すばらしい人とのつながりが形成されることを期待しております。

最後になりますが、これまでご支援ご協力いただきました教職員、学生、保護者そして同窓生の皆様に、心から感謝申し上げます。長い間本当にありがとうございました。なお、定年後の 2 年間は八戸高専に再雇用教員として勤務する予定ですので、八戸にお越しの際にはどうぞ気軽にお立ち寄り下さい。八戸高専と同窓会のますますの発展と、同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念して、定年のご挨拶といたします。

新任教員紹介

【総合科学教育科

特命准教授 小笠原 幸子 先生】

はじめまして。今年度4月より英語を担当しております。出生地は八戸、出身地(人格形成に影響を及ぼした土地)は、東京都文京区です。東大のある区ですが、昔は下町で、私もカジュアルに話す、べらんめえ調かもしれません。他に住んだことがあるのは、年代順に松江、鹿児島、高松、杉並、英国、大阪千里、そして弘前です。弘前で1年過ごした後、八戸に参りますと、津軽と違って、人々が好奇心旺盛であると感じています。



英国の大学院への進学では、corpusを持っている大学を選び、そのデータをもとに collocation の研究をしました。British National Corpus ができる前のことでした。在籍した TEFL(外国語としての英語教育)コースでは、外国語習得理論をはじめ社会言語学も学びました。最近、動機づけ、学習方略指導、記憶といった、教育心理学的な面を研究しています。

英国の学生寮ではアフリカ人と同居し、学内には返還間近の香港人学生が100人単位でいました。また春休みには欧州大陸へ出かけました。20代でそのような学生生活を送ったことが、今の私の基となっています。

長流寺や来迎寺へ親族の墓参りに出かけ、自分のルーツを感じております。どうぞよろしく願いいたします。

【総合科学教育科

特命助教 東海林 恵子 先生】

令和4年度4月1日付で、総合科学教育科の日本語担当教員として着任しました東海林(しょうじ)と申します。私は生まれも育ちも神奈川です。神奈川の海のそばの温暖な地域で過ごしてきたこともあり、八戸の驚異的な寒さに驚いています。越冬できるのか…と、今から不安を隠せません。



今回、八戸高専に着任できたことを大変嬉しく思います。これまでの生活拠点は関東(主に東京都内で勤務)でしたので、八戸で全く異なる文化に触れることは大変刺激的であり、自身の研究にも役立てられるのではないかと考えています。というのは、私の専門は文化人類学だからです。文化の背後にある意味や行動パターンの意味を参与観察を通して分析します。対象としている地域はインドネシアのバリ島です。マイノリティとマジョリティの民族が混在する中でどのように多文化・多様性の社会を築いてきたか、いかなる社会構成のもと異なる民族の共存が可能になっているかについて、現地でのフィールドワークやインタビューをもとに、現象学の質的研究のアプローチを用いて、社会的現実の解明を行っています。

八戸の文化に関しても同様に異文化理解をしていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【総合科学教育科

特命助手 ガルブレス ハンナ 先生】

令和4年4月1日付でタイチュラポーン留学生担当の特命助手として着任しました、ガルブレスハンナ エリザベスと申します。私は今年の3月に八戸高専のマテリアル・バイオ工学コースを卒業し、グローバル高専として留学生の受け入れが増える中、国際交流関係に携わらせていただくことになりました。タイ留学生の1年生をメインに担当し、勉強面や生活面のサポートを行っております。5年間過ごしてきた同じ環境の中でも、学生から教員になり、新しく学ぶことがたくさんありましたが、周りの教員方が支えてくださり、大分慣れてきました。4月から高専生活を始めた留学生たちも日本での生活に慣れ始め、日本語や専門の勉強を頑張ったり、クラスで新しくできた友達と楽しそうに話していたりと、日々成長する姿を間近で見ることができ、大変嬉しく思っております。また、私も外国人として八戸で育ち、八戸高専で積んできた経験を大いに活かして留学生の役に立つことができ、非常にやりがいを感じています。これからも留学生一人ひとりに寄り添い、楽しく充実した高専生活を送れるよう尽力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



【産業システム工学科 機械・医工学コース

助教 北川 広大 先生】

はじめまして。今年度から機械・医工学コースの助教として着任いたしました北川広大と申します。私は北海道釧路市にある釧路高専の本科・専攻科を卒業・修了し、福岡県にある九州工業大学の大学院に進学しました。そして、今年の3月に大学院の博士後期課程を修了し、4月から本校に着任いたしました。



私はヒトの動作姿勢に興味があり、身体負荷を軽減するための動作姿勢や様々な医療現場で使用するための簡便な動作計測技術について研究を進めてきました。現在は介助者の腰痛予防を目的として、腰部負荷の低い介助動作の解明や計測場所を制限されないウェアラブルセンサ（身体に直接装着できるセンサ）を用いて動作姿勢や身体負荷を評価するシステムの開発をおこなっています。また、この他にもスマートデバイスを用いた転倒防止システムの開発などに携わっています。

私自身に未熟な部分が多いものの、周りの方々の親身なご協力のおかげで、少しずつではありますが業務を進められつつあります。また、着任して間もないですが、街の雰囲気や食べ物などから青森県や八戸市の魅力を感じております。まだ至らぬ点・未熟な点が多いですが、今後ともよろしくお願いいたします。

私自身に未熟な部分が多いものの、周りの方々の親身なご協力のおかげで、少しずつではありますが業務を進められつつあります。また、着任して間もないですが、街の雰囲気や食べ物などから青森県や八戸市の魅力を感じております。まだ至らぬ点・未熟な点が多いですが、今後ともよろしくお願いいたします。

令和3年度後半の学内ニュース

第34回 アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2021（高専ロボコン）

コロナ渦の影響により、昨年に引き続きオンラインで実施されました。競技課題は「超絶機巧（すごロボ）」で、Aチームはイカをモチーフとしたロボットを作成しパフォーマンスを行い、マブチモーター株式会社より特別賞を頂きました。



【ロボコン愛好会のみなさん】

令和4年度前半の学内ニュース

第59回 東北地区高専体育大会

今年度の東北地区高専体育大会は、令和4年7月2日（土）～7月3日（日）の期間で開催され、八戸ではサッカー競技・バドミントン競技が行われました。（ハンドボール競技は7月9日～10日、ラグビー競技は10月15日・18日開催）

団体の部では、陸上競技部女子が総合優勝・バレーボール部男子が優勝・卓球部女子が優勝の成績を残し全国大会への出場切符を手に入れました。

個人の部では、陸上競技部・ソフトテニス部・柔道部・卓球部・水泳競技部の選手達が優秀な成績を残し全国大会への出場切符を手に入れました。

各競技結果詳細につきましては、八戸高専のHPよりご確認ください。



【バレーボール部男子のみなさん】



【卓球部のみなさん】



【陸上競技部のみなさん】

第57回 全国高専体育大会

今年度の全国高専体育大会は、高知高専を主管校として開催されます。各競技の開催日程および結果につきましては、全国高等専門学校連合会のHPよりご確認ください。



東北地区大会の
結果はこちら



全国大会の日程
結果はこちら

令和4年度後半 各種大会日程等

第35回 アイデア対決・全国高等専門学校 ロボットコンテスト2021（高専ロボコン）

競技テーマ：『ミラクル☆フライ』

～空へ舞いあがれ！～

東北大会：10月2日（日）

会場：仙台高等専門学校

広瀬キャンパス 第1体育館

全国大会：11月27日（日）

会場：両国国技館

※ 新型コロナウイルスの感染状況によっては
オンラインで開催する可能性があります



本田宗一郎杯 Honda エコマイレッジチャレンジ 2022 第41回 全国大会（エコラン）

10月1日（土）～2日（日）

会場：モビリティリゾートもてぎ

（栃木県茂木町）



第33回 全国高等専門学校 プログラミングコンテスト（プロコン）

メインテーマ：

「ここだんべ！日本一熱き IT の戦場！」

本選：10月15日（土）～16日（日）

会場：Gメッセ群馬

（主管校 群馬高専）

課題部門「オンラインで生み出す新しい楽しみ」

自由部門「自由なテーマで独創的な作品」

競技部門「力あわせる六万人」



第19回 全国高等専門学校 デザインコンペティション デザコン2022 in 有明

メインテーマ：「NEW!!」

本選：12月10日（土）～11日（日）

会場：大牟田文化会館（福岡県大牟田市）

（主管校 有明高専）



コースからのメッセージ

機 械 ・ 医 工 学 コ ー ス

機械・医工学コース長 村山和裕

【進路状況】 令和3年度機械システムデザインコースを卒業した35名の進路は、就職14名、進学20名、その他1名で、本コースとしては初めて進学者数が就職者数を上回りました。就職者のうち県内就職者数は1名(7%)でした。進学者のうち7名は専攻科に進み、更に2年間、本校において勉学に励みます。専攻科の修了生は2人で、2名とも就職でした。なお、求人倍率は本科50倍、専攻科326倍と良好で、コロナ禍の影響は見られません。令和4年度は、本科31名、専攻科7名が卒業修了予定です。本科は13名が就職希望、18名が進学希望と、前年度同様進学希望者が多くなっています。専攻科は3名が就職希望、4名が進学希望です。

【終わりに】 一昨年度は、コロナ禍のため6月上旬まで約2ヵ月オンライン授業を行いました。が、昨年度、今年度ともにそのような長期に渡るオンライン授業は行わずに済んできたおります。ただし、数日間の学級閉鎖や寮閉鎖は断続的に繰り返されており、学生が楽しみにしていた行事等も中止や規模縮小を余儀なくされています。皆様も大変ご苦労なさっていることと存じます。お見舞い申し上げますとともに、これまでと同様に本コースに対するご協力・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

電 気 情 報 工 学 コ ー ス

電気情報工学コース長 野中 崇

【進路状況】 令和3年度は、本科卒業生36名中17名(47%)が就職、18名が(50%)進学、その他1名でした。進学者のうち、専攻科には7名進学しました。専攻科修了生7名中2名が就職、5名が進学し、東北大学大学院に3名、筑波大学大学院に1名進学しました。本科求人数722社、本科求人倍率40.1倍、専攻科求人数672社、専攻科求人倍率336倍となり、コロナ禍の影響はほとんどなく、良好です。

令和4年度は、本科38名卒業予定、専攻科5名修了予定で、本科は就職希望者13名、進学希望者25名、専攻科は就職希望者4名、専攻科進学希望者1名です。

本科の就職と進学の割合は、以前は6割から7割が就職でしたが、近年は進学が5割から6割の傾向になっています。

【本コースの状況】 3月に工藤憲昌先生、松橋信明先生、中ノ勇人先生が退職されました。工藤先生と松橋先生は、引き続き4月から本校の嘱託教授として勤務されています。

【最後に】 卒業生・修了生の皆様方には、多方面に渡りご支援・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。皆様方のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

マテリアル・バイオ工学コース

マテリアル・バイオ工学コース長 齊藤貴之

【進路状況】 令和3年度マテリアル・バイオ工学コース卒業生は43名(男28女15)で、就職20名(男11女9)、進学23名(男17女6)でした。専攻科修了生は7名(男5女2)で、就職2名(男2)、進学5名(男3女2)でした。進学では、本科・専攻科とも進学の割合が高くなりました。本科では関東以西の大学に進学する卒業生も多くなりました。また就職では、地元希望が増え、地元就職者は本科・専攻科あわせて8名(36%)です。

令和4年度の本科5年生は41名(男23女18)で、就職希望12名(男3女9)、進学希望29名(男20女9)です。専攻科2年生は7名(男3女4)で就職希望4名(男1女3)、進学希望3名(男2女1)です。今年度5年生は進学の割合が過去5年間の中では一番高くなっています。

【最後に】 令和3年度の卒業式と令和4年度の入学式はコロナ禍でしたが、体育館で無事に行うことができました。今年度も本科にはタイの留学生2名が入学し、コースの留学生は増えております。海外研修は実施できていませんが、学内でも異文化に触れられるようになっていきます。コロナ禍が長期化しており、卒業生の皆様もご苦労されていることと思いますが、今後とも、本校へのご支援よろしくお願い申し上げます。

環境都市・建築デザインコース

環境都市・建築デザインコース長 藤原広和

卒業生の皆様には、日頃より本コースへのご支援をいただきまして、誠に世話になっており、心よりお礼申し上げます。本コースの今年3月卒業生・修了生の進路について報告いたします。

この3月に本科卒業生45名、専攻科修了生7名を送り出しました。本科卒業生は24名が就職、21名が進学しました。就職の内訳は、公務員が3名であり、企業就職者は21名で、鉄道、電力、ガス等のインフラ系各社、ゼネコン、建設コンサルタント等に就職しています。これらのうち、青森県内企業・機関に就職した卒業生は5名でした(R03年3月卒生は7名)。進学者は本校専攻科へ5名、大学が16名です。また、専攻科修了生は、大学院進学1名、公務員2名、企業就職4名です。

今年度の5年生は36名在籍で、就職希望者が19名(内8名が公務員志望)、進学希望が17名です。専攻科修了予定者は1名で、大学院進学を希望しています。

私自身はコース長を併任してから求人企業等と面談する機会が多いのですが、懐かしい卒業生ともお会いすることもあり、昔話で盛り上がることも多々あります。

卒業生の皆様には今後とも引き続き、本コースへのご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和4年度 事務局短信

★同窓会総会の延期について

令和4年10月1日(土)開催予定の同窓会総会・講演会・懇親会ですが、実行委員会において慎重に検討した結果、残念ながら1年間延期(令和5年9月)することになりました。

★ホームページ(HP)について

同窓会のホームページ(<http://www.hachinohe-ct-dsk.jp/>)を開設しております。これに伴い、HP上からの会費等のクレジット支払いや、住所変更等の書式ダウンロードも可能となっております。なお、当面、従来 of 郵送による会費納入のお願い、住所調査も併用いたします。

★10年会費(10,000円)納入のお願い

今年は、平成14年度3月卒業(MEC-35回生, Z-30回生)および平成24年3月卒業(MEC-45回生, Z-40回生)の方が10年会費納入期にあたります。また、それよりも以前に卒業された会員の皆さんで、10年前に会費を納入していただいた方々も納入時期となります。HP上から会費をクレジットカードにより支払いをお願いいたします。平成30年度の第25回総会で、永年会費への移行(年齢による永年会費の低減措置あり)および会費の変額が承認されました。具体的には、同窓会HPを参照いただきたいのですが、正会員及び準会員は10年会費として10,000円を納めるものとします。但し、永年会費として一時金(～29歳で30,000円、30～39歳で25,000円、40～49歳で20,000円、50～59歳で15,000円、60歳以上で10,000円)を納めた方は、その後の会費を免除します。また、それ以外の同窓生で未納の方も会費納入をお願いいたします。

(注)今年7月に送付済みの同窓会からの封筒に添付されている宛名シールに星印があります。星印の数が10年会費納入までの残りの年数を示しています。従って、星印の無い方が会費を納入する必要があります。

★住所調査葉書

同窓会名簿データ更新のため、住所や職場の変更のあった方は今年7月に送付済みの住所調査葉書にて同窓会宛に返送してください。また、同窓会では経費削減のため会報発行、事務連絡を電子メールで実施することを検討しています。この機会にE-mailアドレスの記入をお願いいたします。

なお、同窓会名簿で非公開としたい情報は、はがきのチェック欄にレ印を記入ください。ただし、同窓会の会員データとして情報が必要ですので住所等は必ず記載してください。

暫くの間、同窓会から郵便物が届かない方は、ホームページ（HP）から住所記載の書式をダウンロードし同窓会まで郵送により連絡してください。

★会員名簿（令和3年1月版）の注文方法のお知らせ

会員名簿（CD版）を令和3年1月に作成しました。令和3年度版の名簿の購入を希望される方は、HP上からクレジットカードにより代金（送料込1,500円）の支払いをお願いいたします。支払をお忘れにならないようご注意ください。

★令和3年度の事業報告

令和3年度は以下の事業を行いました。

年度	月	項 目
令和3年度	4/1	事務局打ち合わせ会議開催（八戸）
	9/18	会報第47号WEB発行
	10月	住所調査実施
	12/11	理事会・評議会（八戸）
	3/18	新入会員（第55期生）に入会資料配布（卒業式）

★同窓会からの郵便の送付先について

同窓会からの郵便の送付先を、勤務先にしたい方は住所調査葉書に記載欄を設けておりますのでご利用ください。

★クラス会活動補助金について

同窓会では、クラス会活動の活性化を目的に「クラス会活動補助金」が予算化されております。活動助成金として、10名以上の集会に対し、年1回、2万円を上限に参加者数×千円を支給します。連絡先を明記したクラス名簿およびクラス会報告（写真などを含む）が義務付けられます。

★その他

同窓会は個人情報保護法の規制団体ではありませんが、連絡いただいた情報の管理は厳格に行っております。また、住所等の情報について特別な事情がある場合には同窓会事務局まで連絡してください。